■ グループ紹介

株式会社　テクノ中部

1．沿革

当社は1979年8月中部環境エンジニヤリングとして操業を開始し，1988年4月中部環境緑化センターと合併し社名を中部環境テックと変更した．

事業内容としては，中部電力株式会社の関係会社として環境調査，各種測定・化学分析，火力・原子力発電所の環境設備の運転管理や放射線管理，廃棄物の有効利用と処理業務の代行さらに化学工業薬品類，フライアッシュの販売，中部電力技術研究所の研究支援など幅広い営業活動を続けてきた．

一方，20数年にわたり発電用燃料の受入荷役，燃料設備の運転管理とこれに伴う通関や船舶代理店等の港湾関係諸業務を広く手がけて来た中部ポートサービス株式会社と1990年10月1日合併し社名も現在の株式会社テクノ中部となった会社である．

合併後も，主として中部電力の火力・原子力発電所に関する業務を担い，それぞれの分野で技術の向上に努めスタッフの充実強化を図りつつ専門会社として数々の実績と経験を積み重ねてきた．

1996年12月13日には測定分析業務で品質保証の国際規格であるISO9002の認証を取得した．引き続き環境マネジメント規格であるISO14001の認証取得を目指して品質管理の体制づくりを進めている．

また，海外への火力施設，環境施設等に関するコンサルタント業務，技術支援等も行っている．

2．概要

資本金	1億2千万円
従業員数	670名
代表者	取締役社長　竹内榮次
売上高	190億円（96年4月～97年3月）
事業場	本店／名古屋市港区大江町3番12 その他事業場13

3．主な事業内容

（1）環境部門：陸域・海域・淡水域・大気等環境調査および開発行為に伴う環境影響予測・評価，保全対策の提言ならびに総合コンサルティング業務．

（2）測定分析部門：火力発電所ボイラーの排ガス測定，各種化学分析，潤滑油・絶縁油試験，イオン交換樹脂試験等の測定分析業務．

（3）燃料部門：火力発電所の燃料（重原油，石炭，LNG）の受入，貯蔵，払出のほか燃料設備の運転・点検・保修業務．また，防災船による荷役中の警戒・監視，オイルフェンス展張等の災害防止業務．

（4）環境設備運転管理：火力発電所の排煙処理・排水処理装置，石炭灰・重原油灰の処理装置等の運転管理業務．

（5）原子力部門：原子力発電所内の化学分析，放射線測定，線量管理，低レベル放射性廃棄体についての性状・核種評価の測定．

（6）技術コンサルタント：国内外の火力施設・環境施設等に係わるコンサルタント，海外への技術支

援業務.

（7）工業薬品，環境薬品，フライアッシュ類の販売：一般化学工業薬品（液体アンモニア，苛性ソーダ等），水処理用薬品（次亜塩素酸ソーダ，高分子凝集剤等）環境薬品（バイオコード，アブラスリング），フライアッシュ，クリンカアッシュ（商品名「ランドプラス」で土壌復元改良材）の販売.

（8）代理業務および港湾サービス業務：石油，石炭，LNGの発電用燃料の輸入に伴う通関業務，船舶代理店業務さらに船舶への給水，給油，その他各種港湾サービス業務.

（9）研究開発支援：中部電力（株）の電力技術研究所および電気利用技術研究所における各種分析，バイオ・栽培を中心として数十件におよぶ研究支援業務.

以上多岐に亘る業務を紹介してきたが，今後とも技術の研鑽に努め，『エネルギー・環境・資源の有効活用』の三本柱をモットーに事業の発展を遂げていきたい.

所在地：〒459　名古屋市緑区大高町北関山20-1

（文責：(株)テクノ中部　技研センター

所長　大野好志）

協賛行事ごあんない

金属学会セミナー97年度企画

「電気自動車(EV)用金属関連材料の将来展望

－部品(電池，モーター等)，材料として何が要求されているのか－」

〔開催日程〕1997年10月8日（水）・9日（木）

〔開催場所〕日本私学振興財団5階講堂

（東京都千代田区富士見1-10-12,

Tel 03-3230-1326）

〔募集定員〕140名

〔受講料（テキスト，消費税込）〕

会員33,000円，学生会員10,000円，

非会員66,000円等（協賛学協会会員は会員扱い）

〔照会・申込先〕社団法人日本金属学会

（〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉，

Tel 022-223-3685）